キャリア教育を小学校の学習指導にどのように組み込むか

―基礎的・汎用的能力としての役割遂行力の育成をめざして―

学籍番号　（159986）
氏名　（鑓水　遼）
主指導教員　（森田　英嗣）

１．はじめに

文部科学省の「キャリア教育」関連の政策文書において、「キャリア教育」の方針について幾度となく検討されてきたものの、「キャリア教育」の学校教育への組み込みが十分ではなかったことが指摘されている。そこで本研究では、①小学校の学習指導の場面においてどのように「キャリア教育」の視点を組み込んでいけるかの検討をすること、②授業実践を通して「キャリア教育」の適切な在り方について探究すること、③それらを踏まえて「キャリア教育」の今後の展望を示すことである。

２．実習校について

大阪市内にある公立小学校において２年間にわたり学校実習を実施した。基本学校実習Ⅰでは、第２学年の子ども達を対象に普段の学校生活や授業の様子等の観察を行った。また、学校として「キャリア教育」に関してどのような取り組みが行われているかについて観察したものの、「キャリア教育」に関する取り組みについては十分に確認できなかった。こうした現状を踏まえ、「キャリア教育」の観点を学習指導の中に組み込む方策を立てることとした。

３．基本学校実習Ⅱにおける授業実践

これまでの「キャリア教育」に関する先行研究では、「４領域８能力」の育成に焦点が当てられたものが多々見受けられた。そこで、これらの先行研究の分析を基に、第２学年国語科「ビーバーの大工事」の単元において、「４領域８能力」の〈人間関係形成能力〉〈情報活用能力〉の育成を目指して授業実践を行った。国語科の学習に「キャリア教育」の能力育成を組み込んだ授業構想を立て、児童の様子、ワークシートの分析から評価を行った。しかしながら、一単元の授業では能力向上を確かめることが難しく、能力の向上を検証するためには児童の実態把握と適切な評価の指標が必要であることが明らかとなった。

４．発展課題実習Ⅰにおける授業実践

基本学校実習Ⅱでは、先行研究の分析を基に「４領域８能力」の育成を目指して授業実践を行ったものの、発展課題実習Ⅰからは 2011 年の中央教育審議会答申で示された「基礎的・汎用的能力」の育成を学習指導に組み込むことを検討することした。学習指導にこの視点を組み込むにあたり、それぞれの教科・単元にどの能力育成を図ることのできる可能性があるか、教

材開発を行うことで分析することとした。また、どのように能力育成を目指すかという観点でルーブリックの開発に取り組んだ。これらの分析を通して、第４学年国語科「みんなで新聞を作ろう」の単元において、教科目標の達成とキャリア教育の視点〈人間関係形成・社会形成能力〉〈課題対応能力〉〈キャリアプランニング能力〉の育成を目指して授業実践を行った。学習場面の児童の様子、ワークシート等の分析を通して、教科とキャリア教育からの視点での評価を行った。また、能力の育成には学習場面での「役割遂行」が重要であるのではないかと考え、役割を与えて学習を進めたものの、児童一人ひとりの役割に関するイメージが異なっており、役割を与えただけではうまく活動に結び付かないという状況が見受けられた。

５．発展課題実習Ⅱにおける授業実践

発展課題実習Ⅱでは、発展課題実習Ⅰでの課題を踏まえ、「基礎的・汎用的能力」の育成のために学習場面での〈役割の認識と遂行力〉をキーワードに、第４学年社会科「大阪府の産業」の単元においてグループ学習を中心に児童に役割を与え、課題を解決する学習に取り組んだ。与えた役割は、〈リーダー〉〈タイムキーパー（サブリーダー）〉〈記録者〉〈報告者〉の４つであり、学習の中で子ども達はどのように役割を認識し、遂行していたかをグループ活動の発話を文字化することで分析し、役割の遂行と学習のパフォーマンスにはどのような関係があるのかの分析を行った。計５つのグループの分析を行い、役割を適切に遂行できているグループは学習における成果、パフォーマンスも高いことが伺えた。しかしながら、役割を遂行できている児童もいればそうでない児童もおり、系統的、継続的な指導が必要であることが明らかとなった。

６．考察

計４回の学校実習を通して、「キャリア教育」の推進と充実を図るために様々な方法を用いて検討してきた。それぞれの授業実践においてどのような点を意識し、学習指導の中に組み込もうとしたのか、組み込んだことによってどのような効果を期待し、どのように評価しようとしたかについて考察を行った。これらの実践の中で、「基礎的・汎用的能力」の育成のためには〈役割の認識と遂行力〉と密接な関係があると考えられた。

７．本研究のまとめと課題

本研究を通して、「キャリア教育」で示されている「基礎的・汎用的能力」の育成のためには、学習場面において子ども達に「役割」を与え、それを認識、遂行していくことができる力を身に付けていくことが必要であると省察した。そこで、「役割」をどのように学習指導に組み込んでいくかが重要となる。どのような方法で学習場面に「役割」を組み込み、どのように理解を図り、遂行していくことができるようにするかという指導の方策について、「認知的徒弟制」の考え方を用いて検討することとした。また、子ども達の発達段階に即した指導が必要であり、学年ごとにどのような点を考慮すべきかについての提案を示している。これから小学校教員として子ども達と接していくにあたり、どのような形で「基礎的・汎用的能力」の育成を目指していくかについて今後も模索し続けていきたい。